講義

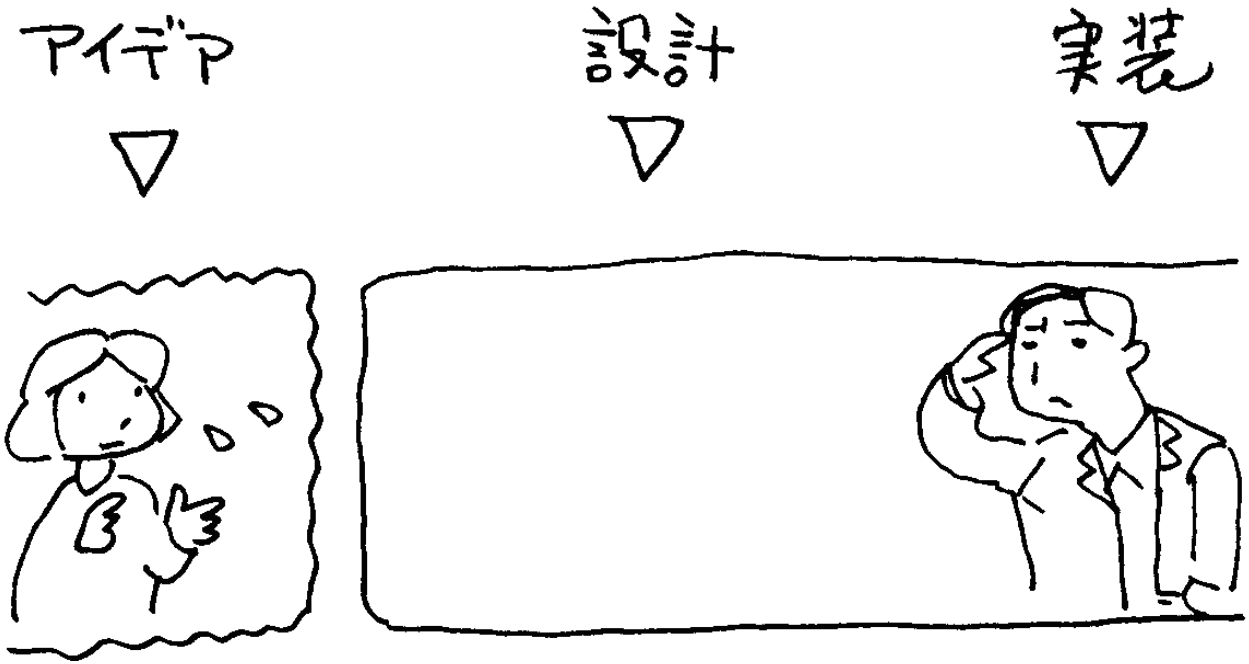
流通する学術情報コンテンツ

山本哲也
名古屋大学　情報連携統括本部

平成 24 年度学術ポータル担当者研修

8.1 名古屋　8.22 NII

システムとしてやりたいことを、なるべく的確に伝えたい。だけど専門知識もなく簡単ではない…

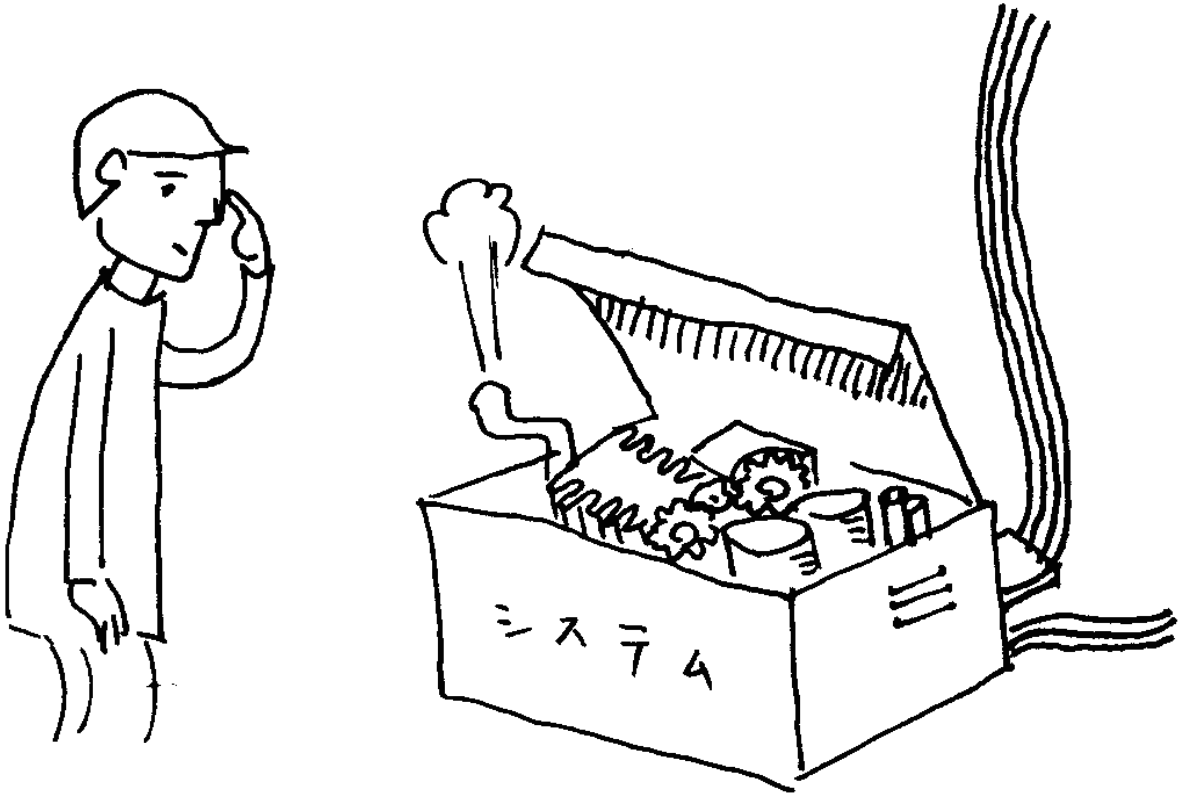


コントロールを（少しだけでも）取り戻したい。

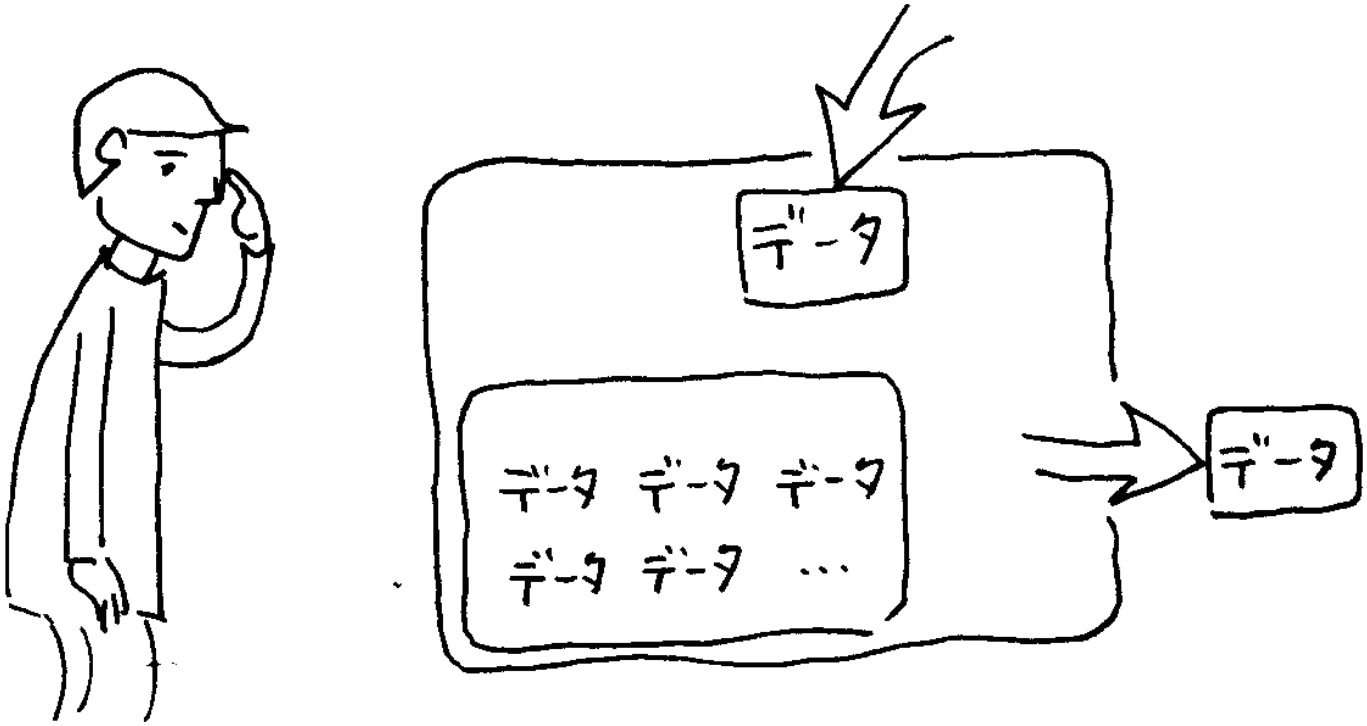
「○○を○○に扱って、○○を実現させるシステムを作りたい」と言えるようになりたい。（※知ったかぶりは危険だけど）

どうしようか？　多分、とりあえずはシステムの勉強をしてみればいいのだろうけど…

手始めに身近なシステムに取り組んでみても、大抵は非常に複雑なものです。

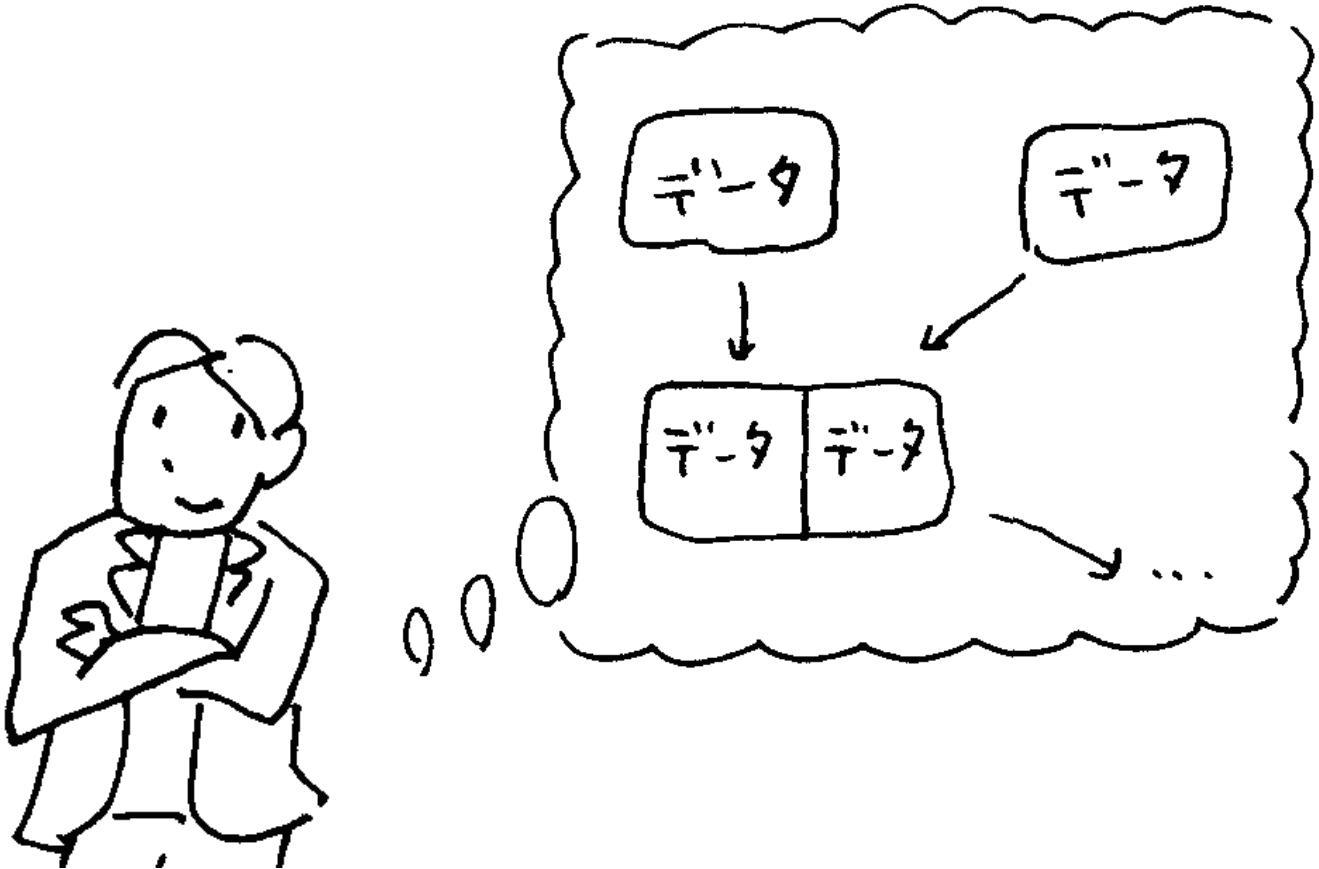


ですから、メカニズムに関わる部分にさしあたりは目をつむり、システムがデータを扱っている、という点のみに注目してみてはどうでしょうか。



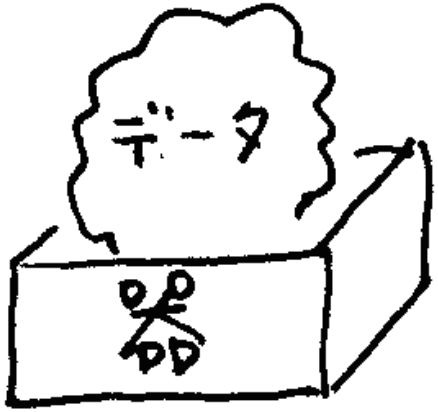
「学術情報コンテンツ」というなにものかも、学術的なものを伝えるデータと言い換えてしまえばよいでしょう。

○○したい、と客に伝えられたとき、開発業者等は、「こういうデータが揃っていればそれは可能だなあ」と考えているものです。

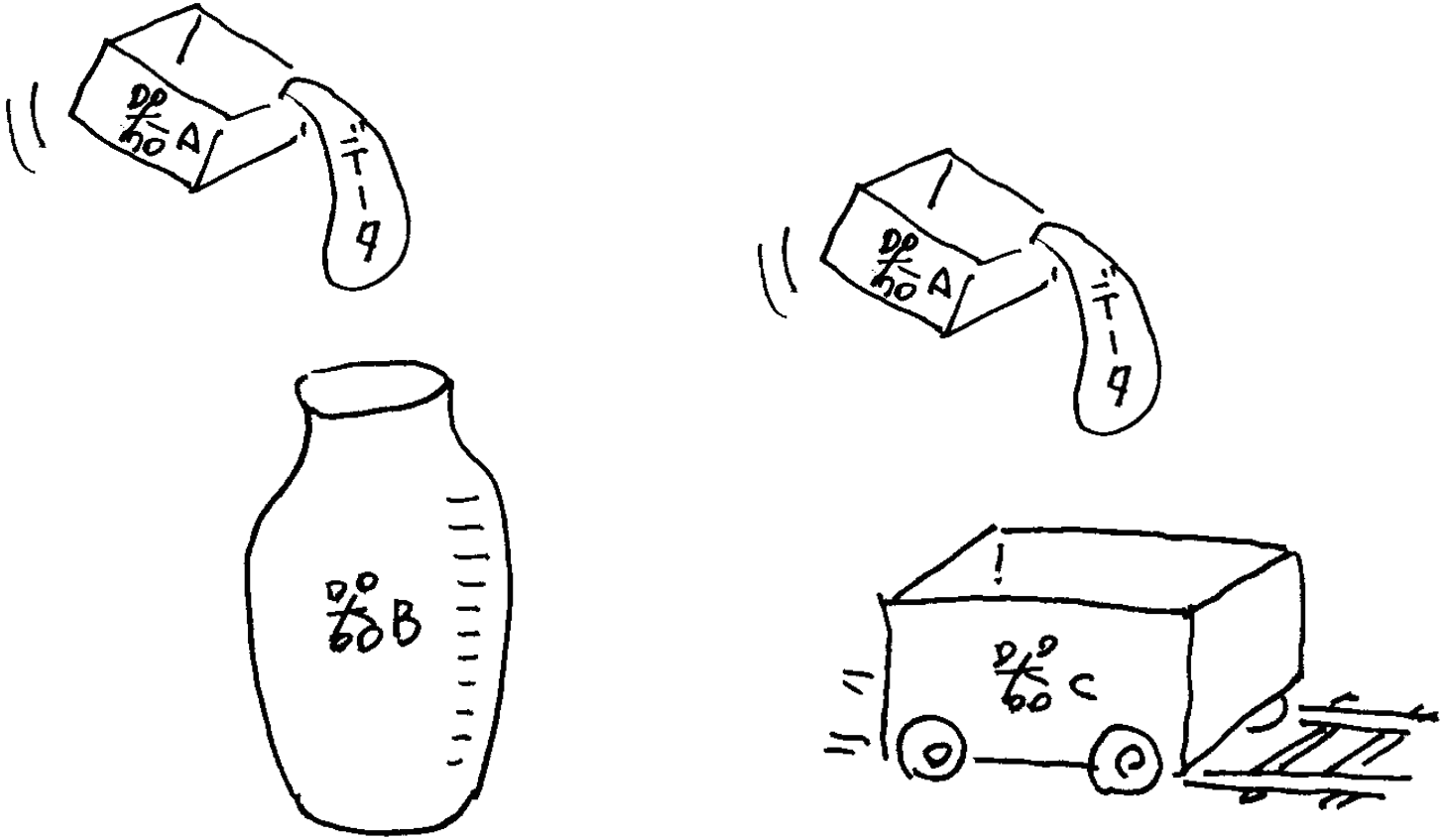


「データ」と、いわば「データの器」とは、はっきり分けて考えるように努めましょう。

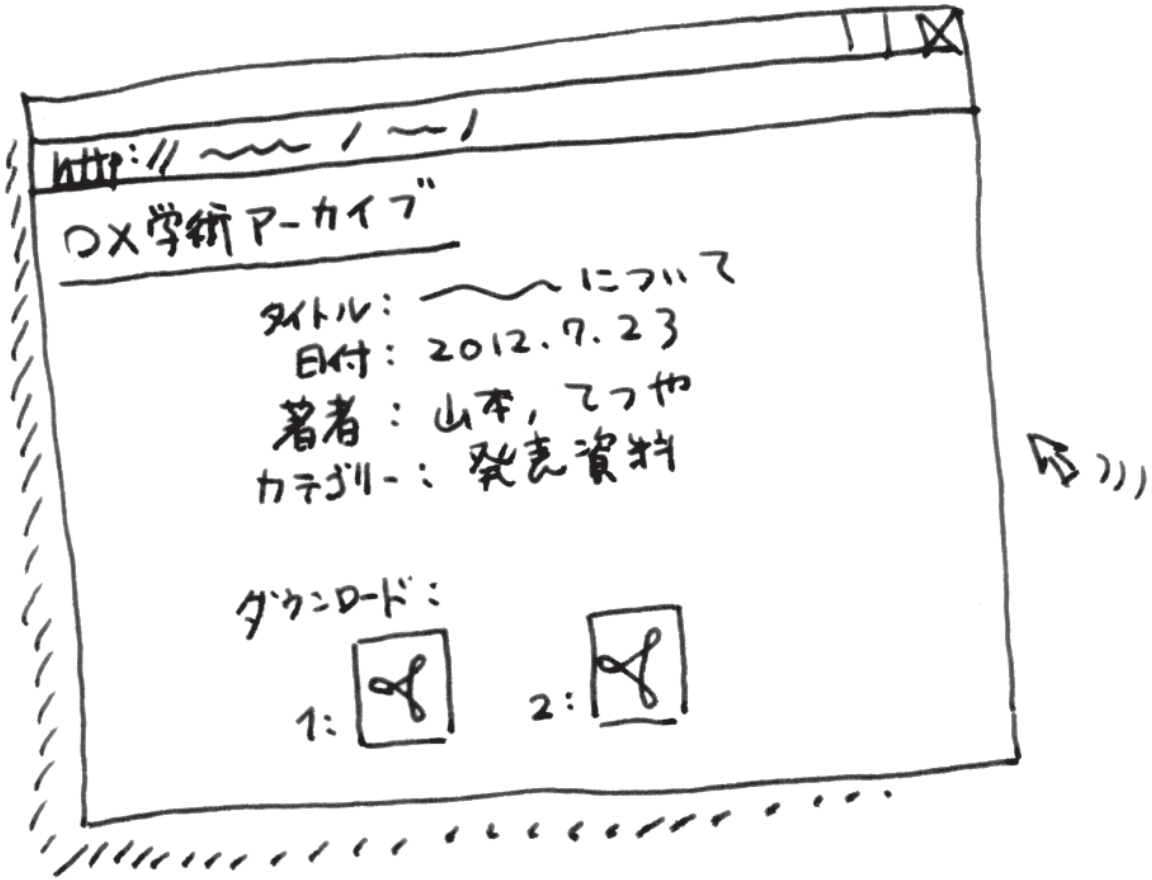
リレーショナルデータベース、とか、XML、とか、CSV とか Excel といったものは、あれはデータの器です。データがコンピュータ的にどう表現されているか（器）を適切に選ぶのは、どんなデータをどう扱いたいかに依存しますし、そこはプロに任せてもよいでしょう。



必要に応じて、データを器から器に移し替えることは可能ですし、また普段からよく行われることです。※器どうしの相性によっては、移りきらずにあふれたり、変質してしまうものもあります。こういうときのために、「標準に従っている」ことは大事です。

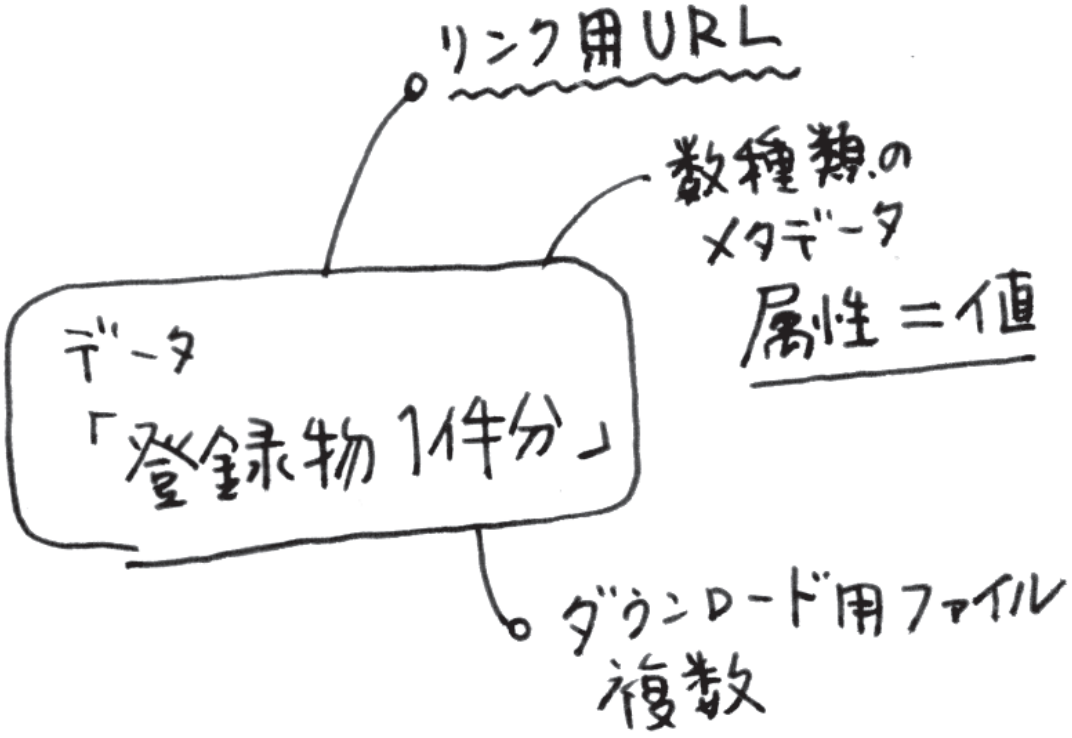


データの例（機関リポジトリみたいなものを題材に）



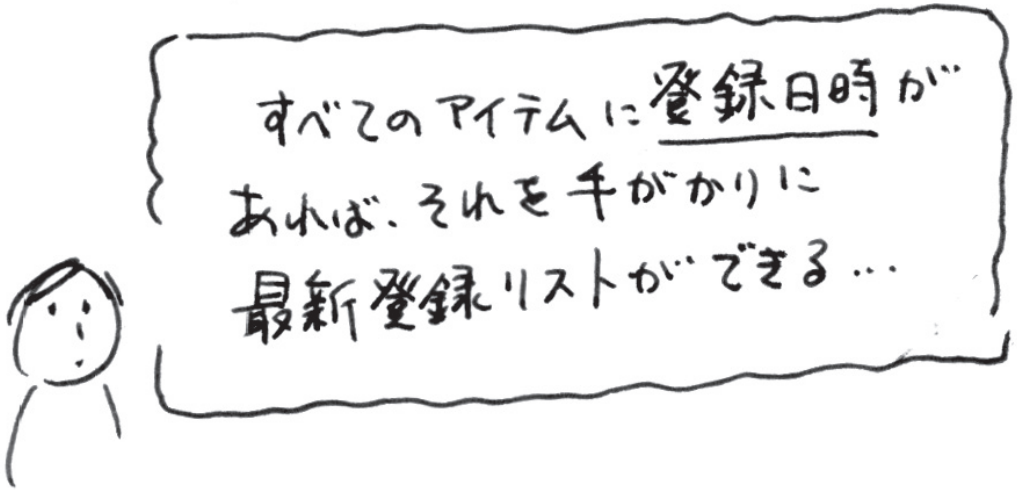
↑これは、データの見せ方。

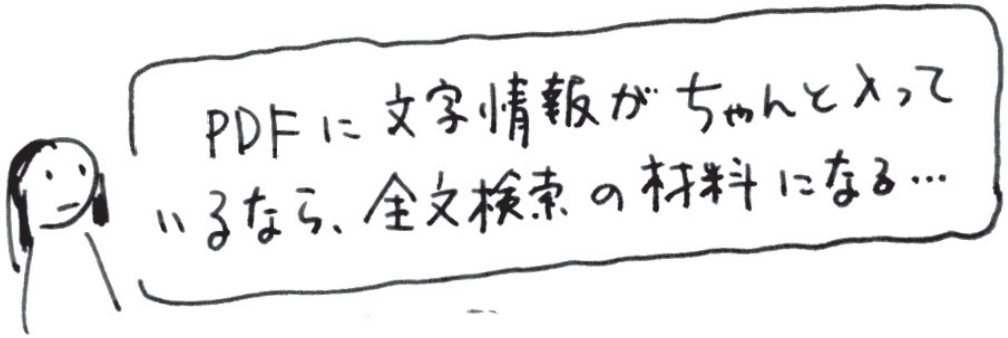
どんなデータのおかげで、これが可能になっているんだろうか。



※ひとつのシステムが二つ以上の種類のデータを扱うことは普通ですが、まずはひとつ「発見」するところから始めればよいでしょう

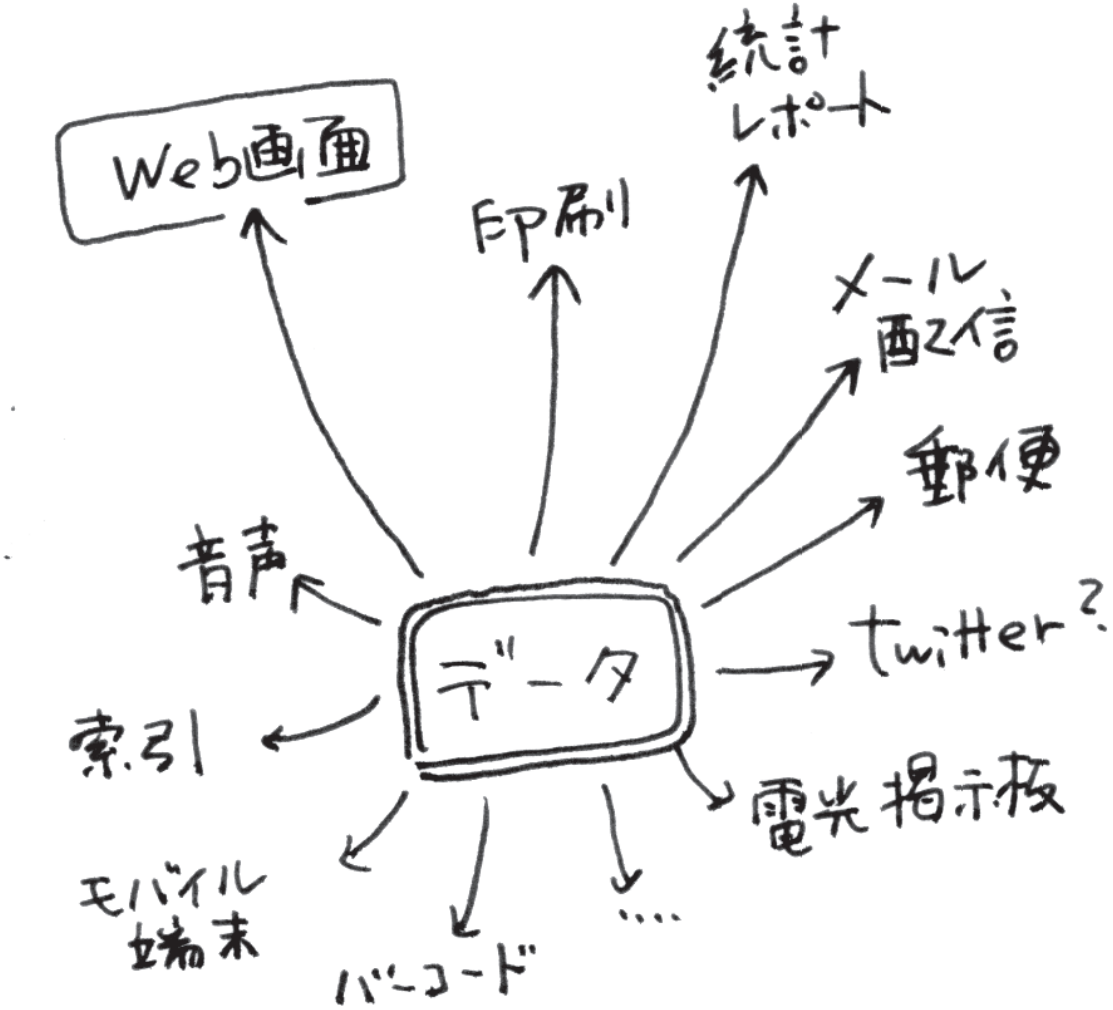
このデータで、他に何ができる（できない）はずだろうか。



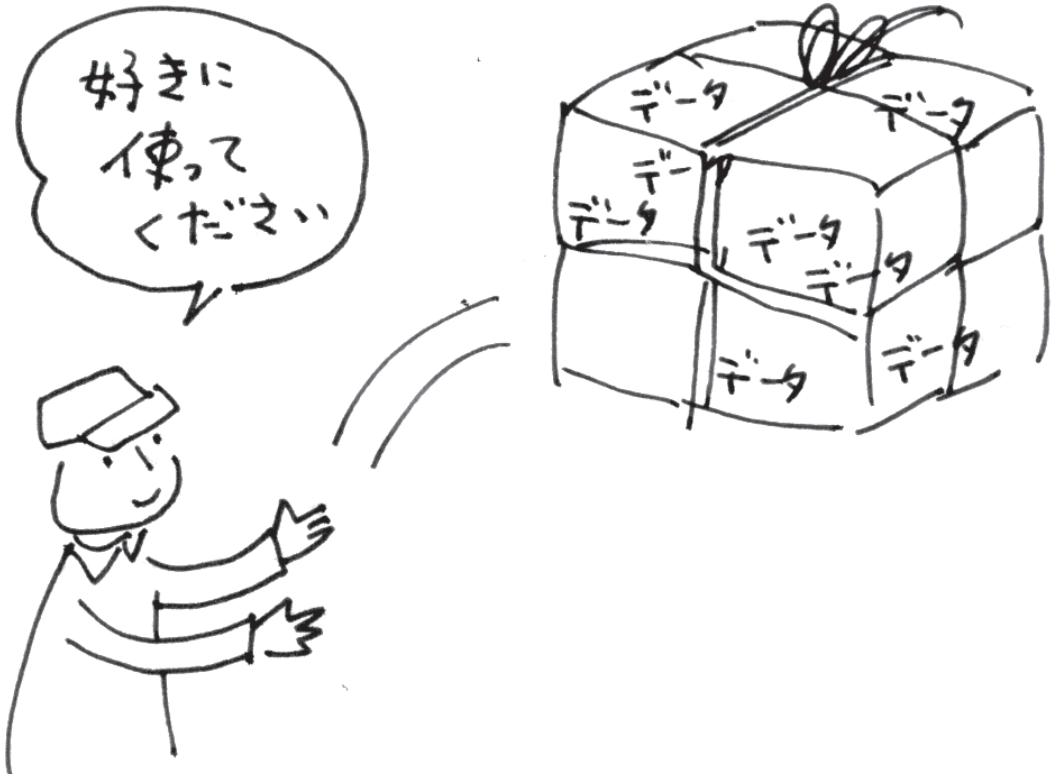


※実際のやり方に関わるところやそのコスト感はプロの領分なことが多いですが、思いつくところは我々の仕事です。

Web で見せる、以外のデータ表現には、どんなものがあるだろうか。



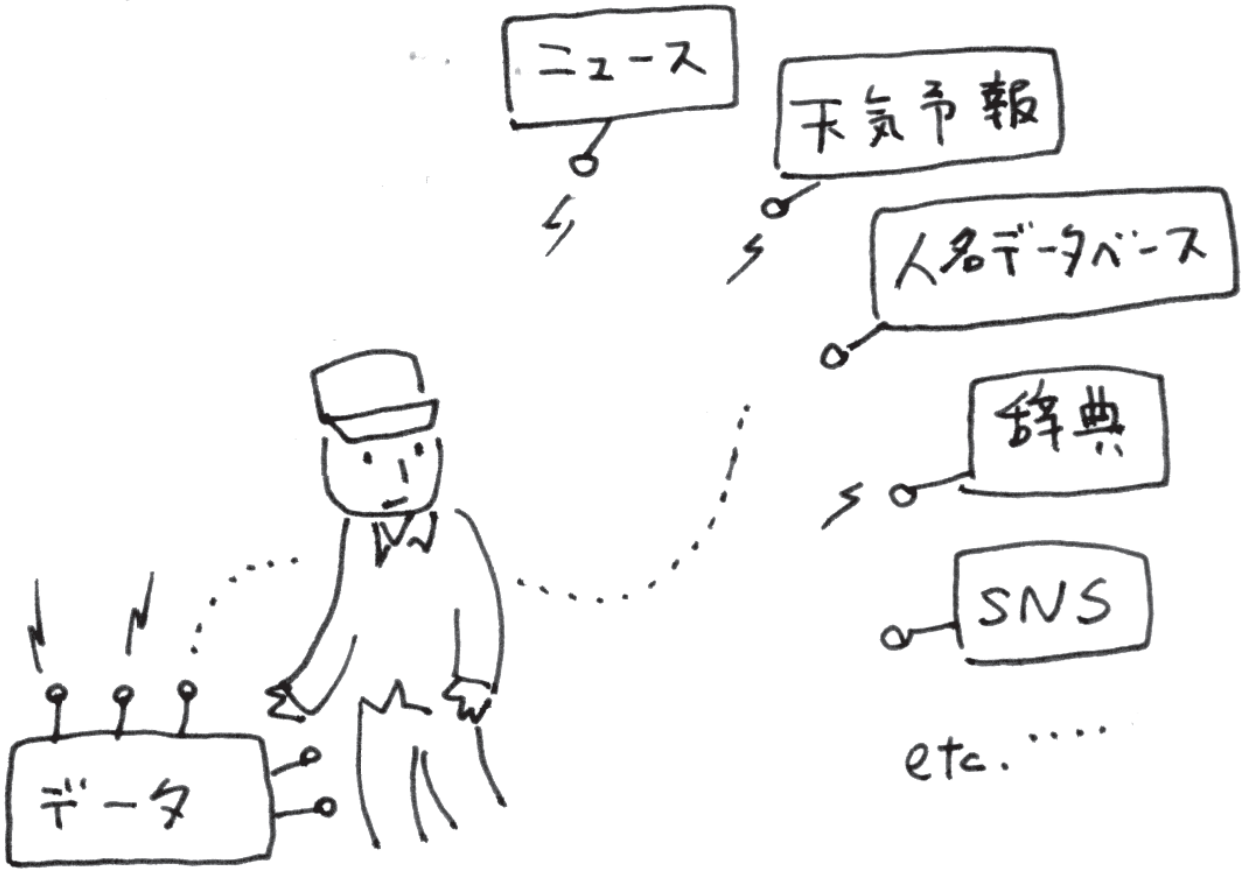
持っているデータ（の一部）を別の何かのシステムに渡して託してしまうと、新しく何が可能になるだろうか。



※渡したデータに URL（リンク情報）が含まれていることは、どのくらい重要なことでしょうか。

別の何かのシステムが持っているデータを、自分達のデータとあわせると、新しく何が可能になるだろうか。

データどうしをつなぐ手がかりが見つかるかが重要です。



どういうデータを管理して何がしたいんだ、ということが分かってこれば、次は、それをどうやって魅力的に見せるか、快適に操作できるようにするか（ユーザーインターフェース）などといったレベルの議論をはじめることが可能です。